

外務省でしかできない経験

2019年3月

外交実務研修員 青山 悠

(茨城県より派遣)

1 はじめに

2017年4月、庁舎周辺の非常に鮮やかな桜が印象的だった外務省に着任してからまもなく2年が経過し、2019年4月からの在外赴任を直前に控えている中、このレポートを書いております。私にとって外務省勤務は、経済産業省勤務(2012年4月～2015年3月の3年間)以来、2回目の国での勤務であり、非常に貴重な経験をさせていただきました。まだ2年間の在外勤務を控えておりますが、これまでの2年間の本省勤務を振り返りたいと思います。

2 北東アジア第一課(改編前の名称は北東アジア課)

(1)全体について

配属先であるアジア大洋州局北東アジア第一課は、日本と韓国間の外交を担当しており、慰安婦問題、竹島問題、旧朝鮮半島出身労働者問題等、極めて重要な外交課題を扱っている部署です。また、北東アジア第一課の前身は北東アジア課であり、2018年7月、韓国、北朝鮮の諸懸案への取組の強化の重要性が高まっていることを受け、韓国及び北朝鮮の両方を所掌してきた北東アジア課が北東アジア第一課(韓国を所掌)及び北東アジア第二課(北朝鮮を所掌)に組織改編されました。ちなみに、県庁で最初、配属先が北東アジア課と知らされたときは、直感的に「ヤバいな…」と正直思いました(笑)。

配属先は、極めて重要な外交案件を扱うこともあってか、省内から非常に優秀な方々が集まっており、そのような環境で仕事ができることに感謝しつつ、連日、業務が深夜に及ぶなど忙しさも省内随一なので、なかなか刺激的な毎日でした。配属当初こそ、仕事の進め方や文化の違い、外務省特有の言葉使いなど、多少戸惑いがありましたが、外交の最前線、しかも、官邸と常に緊密に連携している職場で働くことに、やりがいを感じるようになってきました。

(2)担当業務について

私が配属された経済班は、主に日韓間や韓国の経済案件を担当している班です。経済案件は非常に多岐にわたっておりますが、主な私の担当業務については以下のとおりです。

①韓国経済及び日韓経済リサーチ業務

着任早々、当時の上司に、「青山さんは本省にいる2年間で、韓国経済や日韓経済について、外務省で一番詳しくならないといけない」と言われたことを今でも鮮明に覚えております。その言葉の意味するところは、韓国経済や日韓経済をマクロ的視点で調査・分析し、常に最新の韓国経済や日韓経済の動きをチェックしておくことでした。GDP、貿易、投資、株価等、ありとあらゆる日韓に関する経済指標はもちろん、韓国の経済政策やその影響、話題となるトピックス等も常にチェックし、それらを資料に分かりやすくまとめるなど、リサーチ業務に励んでおりました。正直、まだまだ勉強しなければならない部分はありますが、まさに日韓経済関係の業務の基礎となる業務に携われたことは貴重な経験でした。

②日韓環境保護協力合同委員会

日韓両政府間で日韓間の環境協力、気候変動等のグローバルな環境問題に関する協力等に関する議論する場である「日韓環境保護協力合同委員会」は、日韓交互で開催されてきており、2017年の19回目の会議は、地元の茨城県つくば市で開催いたしました。茨城県では、翌年(2018年)に「第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)」という国際会議が当時控えており、環境問題への関心がより高まると期待されるつくば市で本委員会を開催することは、非常に有意義と捉え、本委員会の茨城開催をアレンジいたしました。また、この機会を捉え、地方の魅力を発信することも重要ですので、茨城県庁や地元関係者の御協力を得ながら茨城産の美味しい食べ物やお酒によるおもてなしや日本



茨城県で開催した第19回日韓環境保護協力合同委員会
(2017年6月)

で2番目の大きさを誇る霞ヶ浦の湖上視察も実施し、韓国の方々に茨城の素晴らしさを知っていただく良い機会となりました。もし、自治体から外務省へ派遣される機会がありましたら、チャンスがあればどんどん地元を巻き込むような仕掛けをしていただきたいと思います。すし、するべきだと思います。

③韓国政府による水産物等輸入規制，風評被害対策

2011年の東日本の大震災以降，韓国は東北地方を中心として8県からの水産物等の輸入規制を行っており，我が国としては，一刻も早く規制を撤廃するよう，様々な機会を捉えて働きかけてきました。また，韓国では依然として，日本産食品に対する風評被害が強く残っており，その払拭に向け，観光資源や被災地の状況等に関する正確な情報発信などに取り組みました。なお，規制されている県の中には，茨城県も含まれていることから，より一層使命感を抱きながら仕事をしました。

④日韓経済人会議

日韓経済人会議は，日韓両国を代表する企業・団体のトップが一堂に会して両国経済の協力関係や課題について意見交換を行う場として，1969年以来，毎年1回，日韓交互に開催されてきており，第50回目の節目となった2018年の会議は，東京で開催され，高円宮妃殿下や安倍総理も出席されました。私は担当として，安倍総理のスピーチ原稿作成や総理表敬のアレンジやロジ等に携わるなど，自治体では決してできない経験をさせていただきました。特に，総理に関しては，過去の会議においては，総理メッセージ発出や別の政府関係者の出席はあったものの，総理本人が出席し挨拶されたことは近年なかったもので，非常に貴重な経験をさせていただきました。



第50回日韓経済人会議で挨拶する安倍総理(2018年5月)

※官邸 HP 掲載写真

⑤その他

上記以外にも実に様々な経験をさせていただきました。例えば，韓国経済副総理や外交部長官等の韓国要人対応においては，空港関係者や警察等と綿密に調整を行い，空港到着・出発時のロジ対応や警備対応等を行いました。外国要人とこれほど間近に接する機会には外務省ならではの経験でありましたし，だからこそ，事故やトラブルがないよう細心の注意を払いました。また，2018年10月の河野外務大臣主催「日韓パートナーシップ宣言」20周年記念レセプションでは，準備から当日の対応ま

で全般的に担当させていただきました他、国会関係では、答弁作成や現場対応のため何度も何度も国会に足を運んだことなど、外務省に来たからこそ経験できた業務がたくさんありました。



河野外務大臣主催「日韓パートナーシップ宣言」
20周年記念レセプション(2018年10月)

3 最後に

本省での2年間は、振り返ると本当にあっという間でありましたが、非常に濃密な時間でした。日本と韓国の関係性については、よく「近くて遠い国」と表現されますが、実際にその関係部署で働いてみて、改めてその言葉の意味を実感しております。日韓関係は現在、非常に厳しい状況が続いておりますが、そういう時だからこそ、「外交力」が求められ、外務省の真価が問われていると思います。いつの日か、諸懸案が解決し、日本と韓国が「近くて近い国」となれることを願っております。

「外務省」と聞くと、華やかでダイナミックなイメージを持つ方も多いかと思いますが、その裏では、地道な情報収集や各種資料作成、そして粘り強い外交交渉などが連日行われており、日本の国益のために汗を流す省員の方々の姿がそこにあります。

このような環境下で働く機会を頂いたことに対し改めて外務省及び茨城県に感謝申し上げますとともに、来る在外公館勤務においても、本省での経験も踏まえ、一つひとつの仕事に真正面から向き合い、取り組んでまいりたいと思います。